

支援プログラム

事業所名：こども発達センターゆりっこ

作成日 2025年 3月 27日

理念		就学前の重症心身障害児や医療的ケア児を対象に、保育士等が自宅を訪問し、こどもの心身の健やかな成長及び発達を支援します ・親子で楽しく触れ合えるように ・安心できる環境で様々な経験ができるように ・その子らしい姿で育めるように		
支援方針		こどもが安心できる環境で様々な体験や人との関わりを通し、育ちの充実を図ります。また、その子の育ちを保護者と共有し、地域での生活に繋げていきます。そして、一人一人のニーズや発達段階を丁寧に把握し、総合的な支援の提供を行います。		
時間		営業時間：8時30分から17時15分 療育時間：9時30分から16時30分（うち、1時間程度）	送迎実施の有無	無し
本人支援	健康・生活	ねらい	・健康状態の維持・改善 ・生活リズムを整える	
		支援内容	1. 療育開始前に家族から丁寧な聞き取りをし、体調を確認する 療育中にもこどもの体調の変化をきめ細やかに観察する 2. 1日の生活リズムを身につけられるよう支援する （例：訪問の時間や療育時間を同じ時間帯に設定する） 3. 個々の特性に合わせた療育内容を考え、お部屋のスペースを様々な遊びが経験できるよう環境設定を行う 療育の開始・終わりや活動内容を分かりやすく提示する	
	運動・感覚	ねらい	・遊びやすい、動きやすい体を作る ・色々な感覚を知り、好き・嫌いなどに気づきながら楽しい遊びを見つける	
		支援内容	1. 落ち着く体勢（仰向け、抱っこなど）で、安心できる状態のもと活動に参加出来るように環境を整える 活動に合わせて、見たり触ったりしやすい姿勢を探していく 2. 遊びや活動を通して様々な感覚に刺激を与え、感覚を養う 3. 色々な遊びを通して、見たり聞いたり触ったりすることに挑戦できる活動を提供する 眼鏡や補聴器、ICT等の補助を使えるよう支援する 4. こどもの感覚の特性に配慮し、無理なく少しずつ慣れていけるように進めていく	
	認知・行動	ねらい	・色々な感覚や遊びを経験する中で、認知の発達を促す ・場面に合わせた自分の体の動かし方を知る	
		支援内容	1. 遊びやすい環境を作って、見る（絵本、パネルシアター）・聞く（楽器の違い、音の高さ）・触る（素材の違い）などさまざまな感覚を育てる活動を提供する 2. 触りたい・動きたい・遊びたいを感じ、体のどこかで表現出来るように支援する 3. 物の使い方（スプーン、クレヨンなど）、素材の違い（小麦粉・糊・寒天など）、色や音の変化に合わせた体の動かし方が増えるように支援する 4. 活動の終わりと始まりが分かるようサインを統一する	
	コミュニケーション	ねらい	・コミュニケーションの基礎を身につける ・自分の気持ちを表出する方法を見つける	
		支援内容	1. 気持ちの表出（表情、発声）を促し、声や言葉がたくさん出るような支援をする 2. 遊びや様々な関わりを通して多くの言葉に触れる 3. 表情、視線、サイン等を用いて、もう1回、やりたいなど意思の伝達ができるように支援する。 4. 自分の思いが伝わる経験が出来るような支援をする	
	人間関係・社会性	ねらい	・家族以外の人との関わり（人間関係）を作る ・家族と一緒にじっくりと遊ぶ時間を持つことで愛着形成を促す ・遊びを通して、人を意識し、社会性の発達を促す	
		支援内容	1. 先生と信頼関係を築き、楽しさの共有を行う 2. 関わりの中で相手を意識できるよう、対面で丁寧な関わりを心がける 3. 家族と一緒に、しっかり関わって遊べるようなプログラムを用意する	
家族支援		・家族からの相談や悩みに対しての助言 ・訪問時の情報共有と必要に応じての発達相談 ・懇談、個別支援計画（6か月毎） ・行事参加（招待動物園、運動会、お別れ会など）	移行支援	・就学に向けて関係機関との情報共有を行う ・他施設へ移行するための情報提供を行う
地域支援・地域連携		・医療（リハビリ、小児科等）、教育（特別支援学校）、施設（児童発達支援等）と必要に応じて連携を行う ・散歩などで地域の人と触れ合う ・児童発達支援事業（ゆり組）との交流に参加し、同世代の友達と触れ合う	職員の質の向上	・虐待防止に関する研修 ・ケース検討 ・身体拘束防止の研修 ・新人教育研修 ・感染症に関する研修および訓練 ・安全管理に関する研修（事故防止、応急処置等） ・発達に関する研修
主な行事等		・入園進級式、誕生日会、運動会、卒園式など、季節に合わせた行事		